

十字架上の七つのことば

第4回「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」

三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という意味である。（マタイ 27:46）

三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という意味である。（マルコ 15:34）

1. 背景

十字架の上で、昼の12時から午後3時まで闇が全地を覆いました。その中で主イエスが叫ばれたのがこのことばです。これは詩編 22:1 からの引用でもあります。詩編 22 編は冒頭こそ「神に捨てられた嘆き」ですが、やがて神への信頼と勝利の賛歌へと展開していきます。

このことばをどう理解するかについては古くから議論があります。ある解釈では、主イエスが人類の罪を身に負ったゆえに、父なる神との断絶を本当に経験されたと考えます。また別の解釈では、詩編全体を念頭に置いた引用として、「見捨てられたように見えるが、実際は神に信頼し続けている」ことを示すともされます。教会教父たちの中には「イエスは人間の苦しみを完全に共にされた」ことを強調する伝統もありました。

2. 意味

このことばには二つの深い意味があります。

① 罪の重みを負われたイエス

私たちの罪が背負われたことで、父から切り離されたかのような孤独と苦悩を味わわれました。救いの代価がどれほど大きなものであったかを示しています。

② 苦しみの中での信頼

詩編 22 編を背景にすると、この叫びは絶望で終わるものではなく、神への信頼を貫く表現でもあります。見捨てられたように感じても、なお神に向かって叫ぶ姿は、究極の信仰の姿とも言えます。

3. 適用

私たちも時に「神に見捨てられた」と思うような暗闇を通ります。しかし、主イエスご自身がその孤独を経験されたからこそ、私たちの嘆きに共感してください。また、この言葉は「絶望の叫び」であると同時に「信仰の祈り」でもあります。私たちも苦しみのあるときにこそ、神に叫び続けることができます。そして、やがて神が応えてくださることを信じる希望を持つことができます。

4. 祈り

「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」と叫ばれた主よ、あなたが罪と死の孤独を背負ってくださったことを感謝します。私たちが試練や苦しみの中で「見捨てられた」と感じる時、あなたがすでにその道を歩まれたことを思い起こさせてください。嘆きの中にも信頼を持ち、暗闇を越えてあなたの希望に生きることができますように。」